

デジタル・アーキビスト概論

後藤 忠彦 監修、谷口 知司 編著

情報化の進展とともに、情報のデジタル化と、情報を組織的、体系的に収集・保存するアーカイブの創造の必要性が高まっている。その分野は博物館、図書館のほか、学校教育も含まれる。本書では「デジタル・アーカイブの

構築と活用には、その対象とする文化的所産への深い理解と、それらを情報化するためのデジタル化の技術や知識を持ち、更に知的財産として保護・管理・流通させ、新しい創造へと担うための能力を持つ人材の養成が必要」と指摘する。

その上で、こうした人材を「デジタル・アーキビスト」と位置付け、その養成についての考え方を展開している。その養成の教育内容には、「文化の



日本文教出版

1890円

03・333899・4611

「情報」を扱うプロの育て方

理解、各専門とする文化分野の活動」「情報の記録処理・管理・利用・創作活動」「法と倫理（知的財産権とプライバシー）」などの3分野があるという。

デジタル・アーカイブの開発、文化および文化活動とデジタル・アーカイブ、アーカイブ化と記録の方法、文化情報の管理、博物館や図書館、学校教育・生涯学習とデジタル・アーカイブ、知的財産や情報検索との関連、課題などを幅広く学べる1冊。巻末には知的財産基本法など関連する法律を収めた資料編が付く。

学校教育に対しては「デジタル・アーキビストの資格を持つ教師を置くべき」と提案し、全教職員にもデジタル・アーキビスト能力を持つことを期待する。

(徳)